

令和 2 年度第 1 回石巻地域普及活動検討会
プロジェクト課題の計画・活動報告について

**プロ課題 1 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上
（「中間管理事業」「スマート農業関連事業」）**

対 象 (株)宮城リスタ大川, (農)みのり, (農)ゆいっこ
活動期間 令和2年度～令和3年度

**プロ課題 2 組織力強化による農業法人の経営ステップアップ
（「GAP」関連課題）**

対 象 (株)めぐいと
活動期間 令和2年度～令和3年度

プロ課題 3 県育成品種「にこにこベリー」の収量安定化

対 象 (株)いちごランド石巻, (株)トライベリーファーム,
(株)イグナルファーム, ((株)アグリ・パレット, (株)サンエイト)
活動期間 令和2年度～令和3年度

**プロ課題 4 地域活性化に向けた高収益作物（アスパラガス）の
導入・定着**

対 象 アスパラガス研究会(20経営体)
活動期間 令和2年度～令和4年度

令和2年度石巻農業改良普及センター プロジェクト課題 活動の概要

※:プロジェクト課題の計画内容等, 詳細については別紙「令和2年度普及指導計画」P3~を御参照ください

課題No.1 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上 (R2~R3)

○対象名 (株)宮城リスタ大川, (農)みのり, (農)ゆいっこ

○目 標 地域内における供給可能な有機物量が把握され, 大規模稲作経営法人による利用計画が作成される。省力化技術として水稻乾田直播栽培技術が定着することで, 労働生産性の向上, 作期拡大によるリスク分散が図られる。

○活動内容及び成果の概要

- ・堆肥施用量の異なる土づくりモデル実証ほ, 水稻乾田直播栽培実証ほを設置して生育状況等を調査した。7月に現地検討会を実施し, 対象3法人と生育状況の確認と意見交換を行った。堆肥施用ほ場では生育量が多くなったことから, 復旧農地への堆肥施用の効果が大きいことについて, 改めて認識することができた。また, 水稻乾田直播栽培実証ほでは, ノビエ等の残草が見られたことから, 入水前の乾田期の除草剤散布のタイミングの判断が非常に重要で, 来年の改善事項であることが認識された。
- ・地域内の堆肥利用状況や供給可能量を把握するため, 畜産法人・農家に堆肥供給意向等の聞き取り調査を実施した。併せて, 耕種法人(対象3法人)に令和3年度以降の堆肥利用に向けた聞き取り調査を行い, 堆肥活用に向けた課題と需給バランスを把握予定。今後, 畜産法人・農家と耕種法人とのディスカッションを行い, 堆肥供給計画と活用計画の作成を図っていく。
- ・水稻乾田直播栽培について, 実証ほの生育・収量調査を行い, 栽培技術の定着を進めるとともに, 春と秋作業の労働力の配分等を12月に計画している成績検討会により検証する。

課題No.2 組織力強化による農業法人の経営ステップアップ (R2~R3)

○対象名 株式会社めぐいと

○目 標 社員の定着促進や情報共有に資する社内制度が整備される。作業の標準化やGAP方式の導入などを通じて, 社内での情報・認識共有が図られる。

○活動内容及び成果の概要

- ・社内組織体制・内規整備を支援するため, 「農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業」を活用した伴走型支援を行う。これまでに, 企業理念の再確認と, 常勤役員・正社員に対する個別面談を実施し, それぞれの会社や仕事に対する考えを聞き取った。
- ・例年, 夏季に作業が滞りがちであったミニトマト部門における作業改善と標準化を図るため, ミニトマト担当社員の考える改善案の試行を支援した。今年の夏は天候不順のせいもあって例年ほど作業が滞らず, めばしい改善効果は実感できなかった。
- ・今後は, ハンズオン事業により「中長期計画策定」「近未来の組織体制構築」「内規整備」を支援する。
- ・また, ミニトマト部門に関しては担当者の現在の技術レベルを確認し, 不足する部分について指導するほか, 水田部門担当として採用した2名の新規学卒者の技術力の向上, ならびに生産管理システムの活用を支援する。

課題No.3 県育成品種「にこにこベリー」の収量安定化 (R2~3)

○対象名 石巻管内のいちご生産5法人

○目標 「にこにこベリー」の品種特性に応じた栽培管理を習得し品質および収量の安定化を目指す

○活動内容及び成果の概要

□令和2年産の振り返り

- ・令和2年産の収量は、対象によってばらつきがあり、3 t~6 t/10 aで県平均よりも低い対象も見られた。要因として1月の収量減(中休み)が見られたが、定植後のハダニまん延による草勢低下や根張り不良、頂果房の着果負担、定植後の高夜温などが上げられた。また、対象によってはヤシガラ培地の経年劣化が排水不良や低 pH を引き起こし、根張り不良の原因にもなっていた。このため、各対象毎に収量低下要因などをまとめて改善作を提案した。その結果、培地交換や定植前のヤシガラ培地ほぐし作業の実施による排水不良、低 pH 改善に結びついた。また、炭酸ガス発生装置を導入し定植時の持ち込みを極力減らしたいという対象も見られた。

□令和3年産に向けた栽培指導

- ・親株育苗管理について4月から月1回および随時の巡回指導を行った。令和2年産同様天候不良による苗の軟弱徒長が見られるため、寒冷紗の取り外し、液肥施用などの指導を行った。「にこにこベリー」の小苗の増殖率は他品種と比べて高く、良質な苗を十分量確保できた。
- ・今後は花芽検鏡調査に基づいた定植指導、環境測定装置の測定データと収量との関連性の解析結果に基づいた「にこにこベリー」に適した温度管理を中心とした栽培指導を行う予定である。

課題No.4 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 (R2~4)

○対象名 アスパラ研究会員(20経営体)

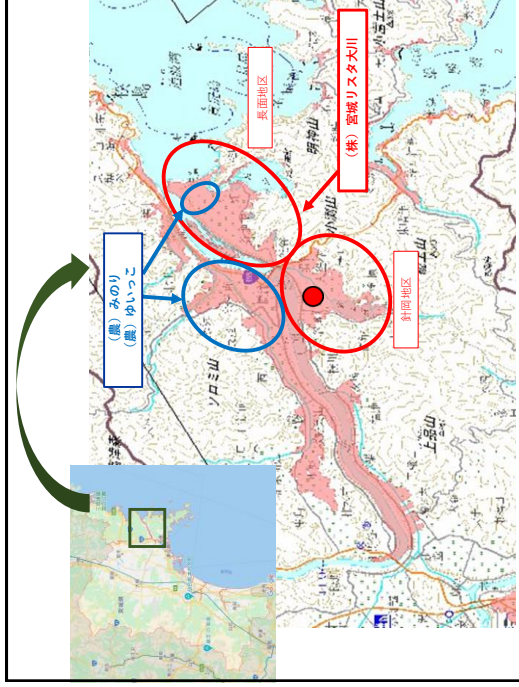
○目標 露地・施設と長期(立茎栽培)・短期(採りつきり栽培®)の組み合わせによる生産体制が確立し、収益が確保できる作物として定着すること

○活動内容及び成果の概要

- ・令和2年4月1日に、アスパラガス生産者を対象に、技術力・販売力・ネットワーク力の3つの力の向上を目標に、アスパラガス研究会を設置した(現在会員数:25経営体)。
- ・安定生産技術に関する技術力向上支援として、(株)パスカファーム立沼のアスパラガス栽培ほ場を会場に、アスパラガス栽培管理勉強会を月に1回程度実施(4回開催)した(延べ参加者は147名)。勉強会のテーマは定植、土寄せ、支柱設置等で、特に病虫害防除については2回の勉強会で病虫害判断方法と農薬散布方法を学んだ。また、ほ場巡回および病虫害防除指導を行うと共に農薬使用記録表を配付し、病虫害発生状況について生産者と一緒に確認することで、生産者は適切な病虫害対策を実施できるようになり、病虫害対策に関する技術レベルが向上した。さらに、生産者が自ら勉強会の内容を復習、作業内容を確認、活用できるように、勉強会の内容を動画に編集し、栽培情報としてYouTubeへ3回投稿した。
- ・販売先確保・単価向上に関する販売力向上支援として、販売戦略会議や市場調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期した。現在は、会議および調査の実施に向けて宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部と打ち合わせを行いながら、準備を進めている。
- ・関係者間のネットワーク力向上支援として、栽培管理方法等を伝えるアスパラガス情報を4回発行し、併せて宮城県普及ブログによる情報発信を行った。生産者が、定期的な勉強会の実施や情報誌、動画を参考に効率的に栽培方法を学ぶことで、適期作業を実施できるようになった。

被災農地における 土づくりの推進による 生産性の向上

計画期間：令和2～3年度
対象：(株)宮城リスタ大川、
(農)みのり、(農)ゆいっこ
チーム員：◎阿部定浩、三上綾子、佐藤元浩、
木村友祐、児玉彩、高橋忠信



課題の背景 (1)

津波被害 (長面地区)



震災前 (平成27年7月)



震災後 (平成23年4月)

津波による甚大な被害

農地への海水・土砂・瓦礫の流入、作土の流失、
農業機械・施設の流失・水没等

課題の背景 (2)

対象法人の経営面積等 (令和2年)

	株式会社 宮城リスタ大川	農事組合法人 みのり	農事組合法人 ゆいっこ
設立	H25.5	H25.4	H21.3
水稻	169ha	40ha	40ha
うち乾直	-	-	14.8ha
備蓄米	-	30ha	-
大豆	7ha	5ha	10ha
施設野菜	?10a	26a	13a
施設さく	83a	-	-
水稻乾曝調製	CE	RC+CE	RC+CE

注) 施設野菜は、リスタはゆき菜、みのりはレタス、ゆき菜、つぼみ菜等、ゆいっこはつぼみな。

課題の背景 (2)

震災後、ほ場整備事業により徐々に農地が復旧し、営農が再開

(株)宮城リスタ大川 規模拡大

年	水稲	うち直播	大豆	施設きく
平成25年				10a
平成26年	55.0ha			93a
平成27年	63.5ha			83a
平成28年	104.6ha	(1.6ha)	10.9ha	83a
平成29年	122.0ha	(13.3ha)	6.7ha	83a
平成30年	134.6ha	(12.1ha)	6.7ha	83a
令和元年	149.7ha	(13.4ha)	7.3ha	83a
令和2年	169.4ha	(0ha)	7.5ha	83a

※1 リスタ大川の計画上の農地復旧事業後の水稲経営面積は205ha。
 ※2 令和2年の乾直は、降雨により播種床造成ができなかったため、移種栽培に変更した。

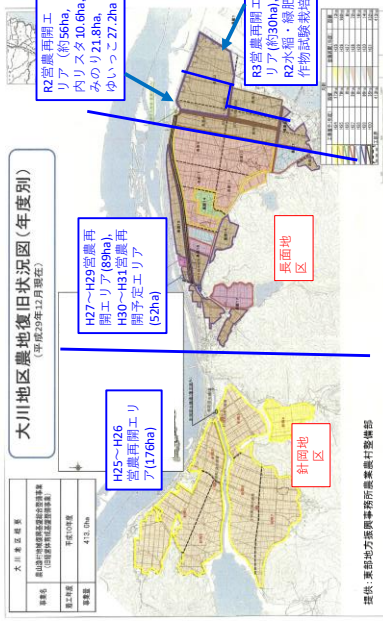
経営の規模拡大に対応した省力化技術の導入・定着

活動事項と目標

- 1 水稲土づくりモデル実証は設置による効果検証支援
 - ・堆肥施用量の異なる実証はを設置し、生育と収量を調査し、比較検討を行う。
 (堆肥施用量: ①2t/10aほ場, ②4t/10aほ場, ③堆肥無施用ほ場(対照区))
 - 水稲の生育・収量確保による経営安定
- 2 地域内有機物活用計画・経費試算及び供給量調査(時期別)
 - ・地域内畜産法人・農家の堆肥供給意向調査により、地域内供給量を把握する。
 → 聞き取り調査
 ・耕種法人(課題対象)の堆肥活用に向けた課題と帶給バランスの把握。
 → 聞き取り調査, 畜産法人・農家と耕種法人とのディスカッション。
 → 堆肥供給計画と活用計画作成によるマッチング・スタイルの検討。
- 3 水稲乾田直播栽培実証は設置による効果検証支援
 - (生育・収量調査, 労働力の配分(春と秋作業)の検証)
 - ・実証はを設置し、生育・収量を調査し、栽培技術の定着を進める。
 → 土地利用型法人の稲作部門内の労働力の配分(春と秋作業)の検証。

※ 数値目標: 復旧農地での有機物投入ほ場における水稲玄米収量(坪別り反収)
 R1: 430kg/10a → R2: 445kg/10a → R3: 460kg/10a

農地復旧状況・計画



提供: 東部地方振興事務所農業課計装係

1 水稲土づくりモデル実証は設置による効果検証支援

表 長面工区 令和2年度 作付開始 ほ場 土壌分析結果 令和2年4月16日 石巻農業改良普及センター

項目	Aほ場	Bほ場	Cほ場	Dほ場	Eほ場	Fほ場	Gほ場
アンモニウム態窒素(mg/100g乾土)	10.6	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	4.9

※ アンモニウム態窒素は30℃8週間培養目標値は8~12kg/10a)

【活動内容】

- ・堆肥施用量の異なる実証はを設置し、生育と収量を調査し、比較検討を行う。
- ・現地検討会, 成績検討会での意見交換による堆肥施用効果の検証。



堆肥2t/10a施用ほ場 (7/31) 堆肥4t/10a施用ほ場 (7/31) 堆肥無施用(対照)ほ場 (7/31)

土づくり実証は現地検討会

- 実証ほの生育調査結果は、生育量が堆肥2t/10a>1t/10a>対照ほ場の順に大きかった(7月31日調査)。
- 現地検討会(7月7日)では、他に堆肥を施用しているほ場のある「みのり」と「ゆいっこ」から、無施用ほ場に比べ生育量・収量が多いとの感想があった。
- 3法人から、長面地区内に堆肥の一時置き場を設置し、散布通期には充分な量を集めておく必要があることなどについて、意見交換が行われた。

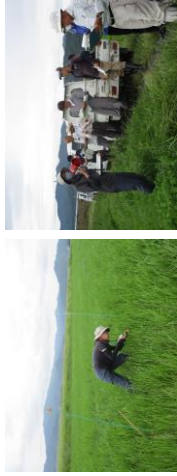


9

3 水稻乾田直播栽培実証ほ設置による効果検証支援

【活動内容】

- 実証ほを設置し、生育・収量を調査し、栽培技術の定着を進める。
- 現地検討会、成績検討会での意見交換による堆肥施用効果の検証。
- 生育調査の結果は、桃生と河南の調査ほ場と比べても、遜色なく、圃調に生育している(7月20日調査)。
- 現地検討会(7月7日)では、播種時期と出芽揃いの関係、除草剤の使用方法を中心に意見交換が行われた。



生育調査の様子

現地検討会の様子(7月7日)

11

2 地域内有機物活用計画・経費試算及び供給量調査

【活動内容】

- 地域内畜産法人・農家への聞き取りによる堆肥供給意向調査により、地域内供給量を把握した。

【畜産法人・農家の聞き取り調査結果】

- 春、秋は自作地や耕種農家への供給で畜産法人側に堆肥の在庫がなくなる状況(特に春先はない)。夏頃に堆肥保管のピークになる畜産法人等が多い。

【宮城リスタ大川への聞き取り】

- 堆肥の一時置き場を準備すること。堆肥を置くための周辺環境に配慮した取組が必要となると考えられる。

【今後の進め方】

- 今後、耕種法人と畜産法人等との話し合いによる、運搬時期・方法等について具体的な話し合いが必要となる。

10

令和2年度の今後の活動

1 水稻土づくりモデル実証ほ設置による効果検証支援

- 実証ほの生育調査の継続、収量調査の実施。
- 成績検討会での堆肥施用効果の検証(収獲量と経営面)。

2 地域内有機物活用計画・経費試算及び供給量調査(時期別)

- 耕種法人(課題対象)の堆肥活用に向けた課題と需給バランスの把握。
→ 聞き取り調査、畜産法人・農家と耕種法人とのディスカッション。

3 水稻乾田直播栽培実証ほ設置による効果検証支援

- 実証ほ生育調査の継続、収量調査の実施。
- 成績検討会での意見交換による栽培技術の検証
- 春と秋作業の労働力の配分検証

※ 数値目標：復旧農地での有機物投入ほ場における水稻玄米収量(坪列り単収)

R1：430kg/10a → R2：445kg/10a → R3：460kg/10a

12

令和2年度

第1回百巻地域普及活動委員会

組織力強化による 農業法人の経営ステップアップ

計画期間：令和2年度から令和3年度まで

支援対象：株式会社めぐいーと

チーム員：◎増岡直史、佐々木宏行、工藤詩織、鈴木香深、児玉彩

1

支援対象の概要

株式会社めぐいーと

- 設立 平成25年11月
- 経営規模 水田145ha（うち水稲94ha）

※主に西本地区・小松地区の担い手として耕作する

- 畑3.7ha（ねぎ等）
- 施設125a（ミニトマト、イタリア野菜等）

- 普及センターのプロジェクト課題「被災沿岸部の大規模経営体における経営の安定化」（平成29年度から令和元年度まで展開）における対象のひとつとして、部門別の収支計算や社員の人材育成、乾田直播技術の安定化などを支援
- 前プロジェクト課題の終了に伴って対象と意見交換をする中で、新たな課題が顕在化

2

本プロジェクトの背景と主旨

会社組織の課題

- ・若い人が働き続ける見通しを立てられない会社になるため、給与や人事考査などの社内制度・内規の整備が課題

園芸部門の課題

- ・ミニトマト部門で特定時期に作業遅れ。作業の見直しと標準化が課題
- ・令和3年度に新規学卒社員を採用予定。技術の伝承が課題

水田部門の課題

- ・集積が進む農地。IT技術などを活用した管理などが課題
- ・令和2年度に新規学卒社員を採用。技術の伝承が課題



決めごとを「見える化」して共有できる体制をつくる



農業法人が抱える普遍的な課題。めぐいーとを1つのモデルケースとする。

3

本プロジェクトの目標指標

定性的目標

- ・社員の定着促進や情報の共有に資する社内制度が整備される。
- ・作業の標準化やGAP方式の導入などを通じて、社内での情報・認識共有が図られる。

定量的数値目標

- ・ミニトマトにおける標準作業 1

決めごとを「見える化」して共有できる体制をつくる

4

普及活動の実施内容（2年間の予定）

活動事項	支援項目	令和2年度	令和3年度
社内組織体制・内規整備など支援	経営理念・中長期計画 内規類の整備 優秀な学生の採用	理念の再確認と中長期計画への反映 必要な内部ルールの洗い出し、整備 R3年度採用支援（農大との連携など）	— ルールの運用と必要に応じた改正 —
ミニトマト部門における作業の標準化とGAPの実践支援	作業の標準化 記録の整備とGAPの実践 新卒育成	現在の栽培管理技術の刷新と改良 —	標準作業の策定と運用 記録方法の整備と記録の運用 技術講習会等
水田部門の強化支援	農地の効率利用 新卒育成	生産管理システムの活用支援 技術講習会等	生産管理システムの活用支援 技術講習会等

—の分野については、「農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業」を活用し、専門家と協働して伴走型支援を行う

5

普及活動の実施内容（今年度）

これまでの活動

- ・組織体制・内規整備支援
- ・農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業において、取り組むべき課題とその順序を、
 - ①企業理念などの再確認
 - ②中長期計画の策定
 - ③近未来の会社組織の設計
 - ④社内制度整備の着手
 とすることを確認。現在までに常勤役員・正社員と1人ひとりと面談を行い、仕事や会社に対する考え等の聞き取りを行った。
- ・ミニトマトにおける作業改善と標準化
 - ・担当社員が考える改善策の試行を支援した。



今後の活動予定

- ・組織体制・内規整備支援：ハンズオン事業を軸に支援を進めていく
- ・ミニトマトにおける作業改善：担当社員の現在の栽培技術レベルについて改めて確認を行い、充分な技術と不足している技術の補正を行う。
- ・水田部門の強化支援：農閑期等を利用した若手社員向け技術研修等を実施するほか、生産管理システム（アプリケーション）の活用支援を行う。

6

令和2年産第1回石巻地域普及活動検討会

課題No.3 県品種「にっこごべりー」の収量安定化

計画期間：令和2年度～3年度

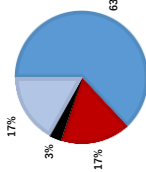


対象：(株)トライベリ、(株)いちごランド、
(株)イグナルファーム、
(株)サンエイ、(株)アグリハレット)
チーム員：◎鈴木香深、内戸修、小林雅文、
三上綾子、關口達

課題と背景

令和2年産「にっこごべりー」栽培面積割合

■みやぎ亘理 ■石巻(法人) ■石巻(個人) ■その他



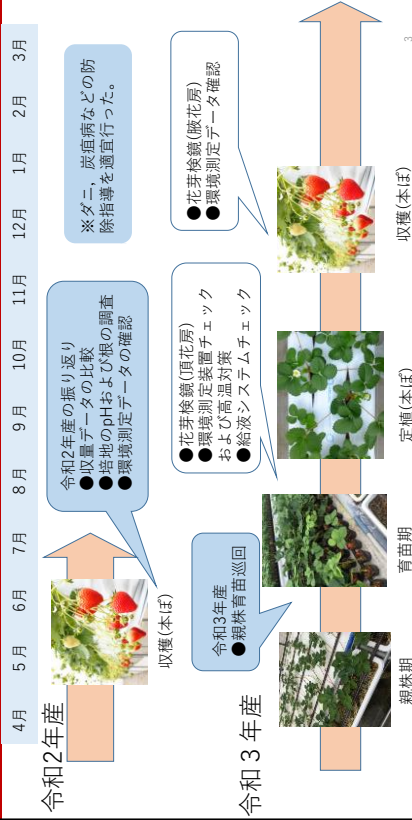
石巻地域の法人等では令和2年産より宮城県育成品種「にっこごべりー」の栽培に取り組んでいる。

従来の「とちおとめ」とは異なる品種特性から、房折れや中休みなどの問題が見られ、品種と収量の安定化が課題である。

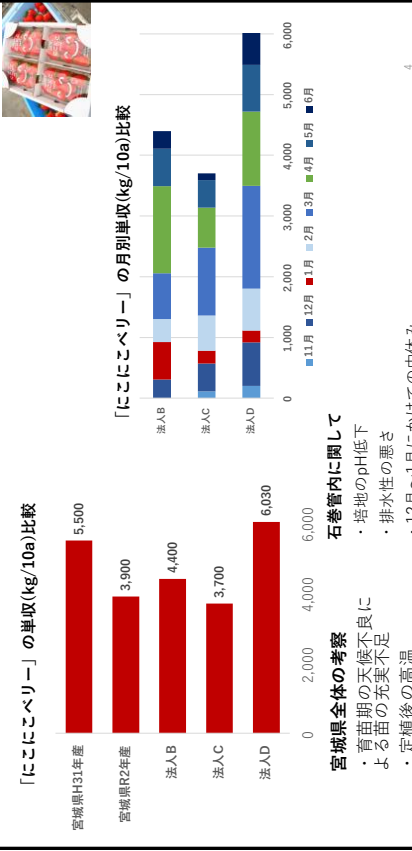
	R1年産	R2年産	R3年産(見込み)
宮城県	1.5ha	4.7ha	10ha以上
石巻地域	0.96ha	1.6ha	

「にっこごべりー」の品種特性に応じた温度管理、養液管理などの栽培管理を習得する必要がある。

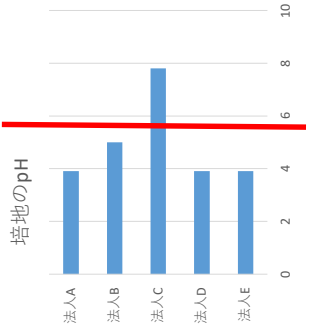
いちごの栽培スケジュールと課題の進捗



令和2年産の収量実績および振り返り



令和2年産のpH調査および根の調査



法人E



給液システムの管理不足による根の褐色化

法人E



ベンチの容量の違いおよびハダニによる株の萎化が原因

法人D

培地のpHの定期的な点検、天候に合わせた給液量の調節、適切な病害虫防除が必要である。

令和2年産について(根の品種間調査)

法人C



多

法人D



少



少

多

肥培管理の違いによって樹勢および根量に違いが出てくると考察できる。 品種にあった肥培管理が必要

令和2年産について(培地の違いによる根調査)

法人B

複数年使用した培地



昨年交換した培地



根張りが非常に良く、スポンジ状になっている。

培地を交換すると、根張りが良く樹勢が強くなるため株間距離など注意が必要である。

令和3年産について(親株育苗巡回)



とちおとめ



葉色が淡く、徒長気味の様子。



●ここにこベリーの小苗の増殖率は30~40本/株と高い。

●昨年同様、雨天曇天が多く苗の軟弱徒長が見られるため、寒冷紗の取り外し、液肥施用などの指導を行っている。

今後について

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

令和2年産



収穫(本ほ)

- 令和2年産の振り返り
- 収穫データの比較
- 栽培地のpHおよび根の調査
- 環境測定データの確認

※ハダニ、炭疽病などの
防除指導を適宜行う。

令和3年産



親株期

- 令和3年産
- 親株育苗巡回



育苗期

- 花芽検鏡(頂花房)
- 環境測定装置チェック
および高温対策
- 給液システムチェック



定植(本ほ)

- 花芽検鏡(腋花房)
- 環境測定データ確認
および高温対策



収穫(本ほ)

課題名No.4

地域活性化に向けた高収益作物
(アスパラガス)の導入・定着

計画期間：令和2年度～令和4年度
対象者：アスパラガス研究会(20経営体)
担当者：◎小山 かがみ、田中 正毅、佐藤元道、
高橋忠信、濁沼小百合

1) 課題の背景

地域には、
儲かる農業が必要

背景

- ・ 持続的な発展には農業所得の向上が不可欠
 - ・ アスパラガスは他の露地野菜と比較して高収益作物
 - ・ 定植翌年に収穫でき、病害虫の発生が慣行栽培より少ない
- 「アスパラガス採りっぎり栽培[®]」が開発される
- ※明治大学とハイオクアエコサイエンス(株)による共同開発
- ・ 令和2年にアスパラガス研究会が設立

仙台市場単価
約1400円/kg

プロジェクト課題として、地域に生産体制を確立し、作物として定着するための支援を行います

2) 目標

定性的目標

- ◎アスパラガスの生理生態を理解し、アスパラガス採りっぎり栽培方法を習得する
- ◎市場調査分析による販売戦略を主体的に検討する

定量的目標

年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
面積	2 a	25 a	50a	100a

3) 普及活動の実施内容

◎活動内容

- ①安定生産技術に関する技術力向上
勉強会の開催、現地検討会や視察研修の開催、生育調査など
- ②販売先確保、単価向上に対する販売力向上
販売戦略会議の開催、市場調査など
- ③関係者間のネットワーク力向上
アスパラガス栽培セミナーの開催、アスパラガス情報やブログによる情報発信など

3) 普及活動の実施内容

① 安定生産技術に関する技術力向上

◎月に1回程度、アスパラガス栽培管理勉強会を開催

日時	令和2年4月8日	令和2年6月4日	令和2年7月1日
内容	定植編	土寄せ・支柱立て編	病害虫対策編



定植編 (4/8)



土寄せ・支柱立て編 (6/4)



病害虫対策編 (7/1)

5

3) 普及活動の実施内容

① 安定生産技術に関する技術力向上

◎勉強会の内容をYouTubeへ動画投稿

投稿日	令和2年4月15日	令和2年7月9日	令和2年7月29日
内容	定植編	土寄せ・支柱立て編	病害虫対策編



YouTube動画「土寄せ・支柱立て編」

◎勉強会の内容を動画にして投稿することで、
 ・参加者が自分で復習できる
 ・勉強会に参加しなかった栽培者が学べる
 ・新しく始める栽培者が自分で学べる

↑
より分かりやすく情報発信！

6

3) 普及活動の実施内容

② 販売先確保、単価向上に対する販売力向上

- ・販売戦略会議の開催
 - ・市場調査 (対象：農産物直売所など)
- ※農園 研情報経営部の調査と連携して実施

－ 開催見合わせ

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を見合わせた計画は、8月以降に状況を見ながら実施

↑
8月以降の実施に向けて、農園研情報経営部と打ち合わせを継続的に実施中 (実需者アンケート調査、生産者を対象に5F分析などを計画)

7

3) 普及活動の実施内容

③ 関係者間のネットワーク向上

◎アスパラガス情報の発行やブログへの掲載

発行日	令和2年4月22日	令和2年7月20日	令和2年7月29日
内容	No1 定植編	No2 土寄せ・支柱立て編	No3 病害虫対策編



アスパラガス情報No.1



アスパラガス情報No.2

8

6) 今後の活動予定

① 安定生産技術に関する技術力向上

- ・ 管理栽培勉強会(月1回程度)、YouTubeへの動画投稿
- ・ 先進地視察研修(県外：岩手県一関市、県内：村田町)
- ・ 収量予測調査

② 販売先確保、単価向上に対する販売力向上

- ・ 販売戦略会議 } 農園研情経部と連携しながら実施
- ・ 市場調査

③ 関係者間のネットワーク力向上

- ・ アスハラガス情報の発行、ブログでの情報発信
- ・ アスハラガス栽培セミナーや交流会の開催